

研究課題名：

抗菌薬に耐性を示す*Pseudomonas aeruginosa*感染症の発生状況に関する研究

研究の目的と方法：

緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*) は免疫不全者等にとって日和見感染症の原因となり、菌血症による30日死亡率は25-40%と高いことが知られています。カルバペネム耐性緑膿菌 (Carbapenem Resistant *Pseudomonas aeruginosa* ; CRP) や薬剤耐性緑膿菌 (Multi Drug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* ; MDRP) は、抗菌薬が効きにくい緑膿菌として知られており、当該菌による感染症は治療の選択肢が制限され、治療に難渋することから、国際的な課題とされています。しかし、その国内での発生頻度や患者背景等については、未だデータが乏しく、明らかとなっておりません。

本研究では、CRPAおよびMDRP感染症の将来的な監視体制の在り方について検討するための知見を得るべく、当該感染症の発生頻度や重症度等について調査いたします。

本研究の結果は、緑膿菌の薬剤耐性について非常に有用な知見をもたらす可能性があり、社会的意義は非常に大きいと考えます。なお、本研究でいただいた情報を用いて個人を特定することはありません。また、研究の成果が学会や専門誌、報告書などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：

2018年1月から2023年12月の間に石川県内の病院に入院した方のうち、CRPAもしくはMDRPによる感染症と診断された患者が対象となります。

研究の参加・不参加に関する問い合わせは下記代表者までご連絡ください。

研究期間：

2024年4月22日（倫理審査承認日）～2028年3月31日

研究に用いる試料・情報：

CRPAもしくはMDRPが検出された検体名、基礎疾患、ICU等集中治療室入室歴、30日以内院内死亡の有無等。ただし、個人が特定される情報は含みません。

研究の管理責任者及びお問い合わせ先：

国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター 山岸 拓也

併任 実地疫学研究センター

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-7-2 飯田橋プレーノステージビルディング J1601

TEL 03-6261-4865 FAX 03-6261-0189